



平成 20 年 4 月 20 日
第 190 号
清野新聞社

北海道「我が家の

ルーツをたどる」(修)

父から、我が家は明治の末に祖父が福島県から開拓入植したのが始まりと聞いていましたが、北海道生まれ育ちの我々孫世代にとって北海道はあたりまえのことであり、内地のことについて特別の興味を持ちたり付き合う機会はありませんでした。

ただ、平成三年の頃、桑折町の S Y さんは私とは又従兄弟(ハトコ)の関係になります。当時町議会議長の立場にあり、農水本省を来訪された際にお会いする機会がありました。一〇数名の団体でしたが挨拶を交わす前に直感でこの人だと解ったことが不思議な感動として覚えています。

父や I 伯父は何人かと交流が続いており、父の回想録を編集する際も一通りの話しは聞いて知ってはいました。

I さんが平成十五年に亡くなり、私が直接面識ある人はいなくなりましたが、今回仕事上のひと区切



地蔵桜

りをむかえて時間が出来たことから、妻と二人で春の花巡りをしながら福島へ行ってみることにしました。

「TYさん」

最初は「郡山市田村町川曲字寺沢一〇九の一」TYさん。祖母ケンの実家になります。四月十六日、朝九時に守谷の自宅を出て常磐高速を経由して二時間あまり。国道四九号線から入って直ぐのところ、交差点の酒屋さんで道を聞いたら目の前の丘の



上の大きな旧家でした。TYさんの話では明治八年の建築で、途中火事にあつたが柱はそのまままで改装しているとのこと、天井が高いのにも驚きました。大変ささくご夫妻で、何かと話し込んだ後に近くの地蔵桜などの名勝を案内していただき、帰りにはウドやお米まで頂いてしまいました。

「Sさん」

翌十七日は「桑折町成田堰上三〇」SYさん宅へ。飯坂インターを降りて桑折町まで行くが地図を見ても「堰上」の地名が出てこない。近くの郵便局に飛び込んで住宅地図で調べると直ぐに判明。なるほど住宅下に水路があり堰上の住居表示も納得できました。

早速SYさんの仏壇に線香を上げさせてもらう。婆ちゃん、息子のHさん夫婦、大宮市在住の娘さんもたまたま来ており、近くのMさんのお婆ちゃんも来てくれました。

名寄のSTさんや亡くなった本家のM婆ちゃんの生家でもあるので賑やかに話しが出来ました。

大笹生の本家について聞いてみたところ、代も替わり今は付き合えないとのことでしたが、たまたま当日の朝刊にSYさんの葬儀公告が掲載されており住所が判明

しました。



「Sさん」

「福島市大笹生字中道7」喪主は長男T、四月十五日に亡くなり十九日に告別式とのこと。

全くの偶然とはいえ正直なところ驚きました。正直今回の旅行ではそこまで予定していませんでしたが、これも何かの縁だろうと思いついて、早速行ってみることにしました。ただ、土地勘がないので住所だけでは自信がありません。午後福島市在住の友人宅を訪ねることにしたので、そこで聞いてみたところ、家の前までわざわざ車で案内してくれて大いに助かりました。

飯坂から山形へ抜ける国道十三

三春の滝桜

円谷さん宅から数十分の場所にあります。樹齡千年以上といわれるエドヒガン系のベニシダレザクラ、根回り 11 畝斜面畑に一本立ち、枝一杯に咲く花が滝にみえる。淡墨桜(岐阜) 神代桜(山梨) と並ぶ日本三大桜のひとつ

渋滞との前情報で16日朝一番で到着、かなりの人混みでした。五分咲きとのインターネット情報でしたが、好天に恵まれ見ている間に七分くらいまで咲いてきてかなりの迫力でした。近くでよく見ると個々の花びらは小さくかわいい



号線を少し入ったところで、橋を渡り川沿いの向かい斜面にありました。十七日午後三時過ぎに突然の訪問をしたところ、通夜のため親戚一同が集まっており、皆「北海道



から」と聞いて驚きながら歓待してくれました。Yさんの霊前にお参りした後、父の回想録「オホーツクの大地に生きる」を手渡してあれこれと話しに花が咲きました。「福島のS家」は兵五郎が渡道した三年後の明治四十二年に、やはりお家再建のために大笹生原から現在地に開拓に入ったそうです。焼野といわれた未開の地を開墾し、当時はまだあまり知られていない桃の栽培を手がけたとのこと。現在の福島県は日本一の桃の産地となつていますが、その先駆けとも言える役割を果たしました。帰りの道、県北地方は一面桃の花が満開で絨毯のようでした。原にあつたご先祖の墓も一緒に

福島市の花見山

いわゆる公園ではなく、花の生産農家が私有地を無料で開放したのが始まりとのこと。美瑛の農地景観と同じ農業の多面的効果と言えることに興味を持って行ってみました、想像を絶する光景でした。写真家故秋山庄太郎が「福島に桃源郷あり」と称えたそうですが、全く同感です。農村、山毎がまるまる桜、桃、梅、レンギョウ、ユキヤナギ等などの花で覆われいっせいに咲き誇っています。私も日本中、世界中廻りましたが、これは是非一見の価値あり。



持ってきましたが、その後国道拡張によって再度移転したとのこと。長男Kは戦死、相続した次男Sは今回亡くなりましたが、東京に姉は健在、三男のT、四男のY、五男のJ、六男のTと四人の兄弟が揃って皆さんお元気でした。(回想録の家系図の氏名は一部漢字を修正)ただ、福島のS家は誰も酒は飲めないとのこと、H爺が北海道に全部持っていったのではとの余談でした。その一部は私に廻ってきましたようですが。北海道のS家はH爺が渡道して百三年、上芭露に入植して九十四年。凡そ百年という時間の経過の中で北海道はもちろんですが、福島にも大きな変化があつたはずで

す。ただ今回、春の福島を訪れてみてここにはもつと悠久の里山の自然や日本の故郷としての原風景が残されていると実感しました。梅、桜、桃とまさしく三つの春が真つ盛りの会津道を歩きながら不思議な感動を体験できました。今回は多くの親戚の皆さんに会うことが出来ました。全員初めての出会いでしたが、私の図々しさか親戚としての気安さか、何処へ行っても最初から楽しく気軽に話しが出来、またお世話になりました。心から御礼を申し上げます。そしてご先祖様に感謝感謝！ありがとうございます。